



第4章 「夢・未来」 スポーツ拠点の整備

目標

青少年の夢やあこがれとなり、府民の誰もが親しみの持てるスポーツ施設の整備を進めます。

京都府のスポーツ施設は昭和63年の「京都国体」以降、新たな拠点整備が行われておらず、老朽化が進行し、厳しい状況にあったことから、京都府立体育館の大規模なリニューアル整備を行うとともに、府立丹波・山城両運動公園や、これまで府内になかった専用球技場の整備等に取り組んでおり、今後一層、これらの取組を進めます。

▶ 具体的目標

- 1 青少年の夢やあこがれとなり、府民が誇れる専用球技場「京都スタジアム」（仮称）の整備
- 2 ジュニアアスリートの育成拠点となる「京都トレーニングセンター」（仮称）の整備
- 3 競技スポーツと生涯スポーツ双方の府民ニーズを踏まえた府立運動公園等の整備



I 青少年の夢やあこがれとなる環境づくり

臨場感あふれる試合の観戦を通して、高度な技やすばらしいプレイを身近に体感するとともに、観るだけでなくその場所で競技をしたいとあこがれを持てるようなスポーツ施設を整備します。

また、ジュニアアスリートの競技力向上に向け、宿泊機能を有するトレーニング環境を整備します。

1 子どもたちの夢とあこがれの舞台となり、府民が誇りを持つことができる施設

(1) 府立体育館のリニューアルを契機とした国際大会等の開催

平成25年6月にリニューアルオープンした府立体育館において、今後様々な国際大会、全国大会を開催することにより、一流のプレイを通じて青少年に夢や希望を与える機会を提供します。

(2) 専用球技場「京都スタジアム」(仮称)の整備

国際的、全国的な試合を身近に体感するとともに、競技者の最高の舞台として、あこがれとなるようなスタジアムを整備します。

2 ジュニアアスリートの体力・競技力の向上と絆づくりの拠点となる施設

ジュニアアスリートの育成拠点を目指し、宿泊機能を有するワンストップのトレーニング環境を整えた「京都トレーニングセンター」(仮称)を府立丹波自然運動公園に整備します。

3 手軽にスポーツを楽しめるとともに、競技スポーツの拠点となる施設

誰もが手軽にスポーツを楽しめるとともに、全国レベルの大会が開催できるよう府立丹波自然運動公園、府立山城総合運動公園を整備します。

II スポーツに親しみやすい環境づくり

新しいスポーツニーズに対応したスポーツ施設を充実するため、府立運動公園等の整備を行います。

1 子ども、高齢者、女性、障害者等誰にでも優しい施設

～利用者の視点に立って、誰もが使いやすく、環境先進地・京都にふさわしい施設整備～

バリアフリー、エコロジーに配慮し、誰もが安全で安心して気軽に利用でき、地域のコミュニケーションの場となるような施設を目指します。

2 「する」「観る」「支える」それぞれの立場に立った施設

～「する」「観る」「支える」人々の、一体感が醸成できるような施設整備～

それぞれの立場の人が集まる拠点となり、互いに夢と希望、感動や勇気を共有し、絆を深めることができる施設を目指します。

3 安心・安全な施設

(1) 老朽化等への対応

(2) 非常時や災害時の避難や対応等、防災拠点となる施設整備

府民がスポーツを安心・安全に利用できるとともに、非常時や災害時の安心・安全な防災拠点となる施設整備を進めます。

4 新しいスポーツニーズに対応した施設

(1) 府民ニーズを踏まえた府立のスポーツ施設の総合的リニューアル

利用時間の延長や雨でも利用可能となるよう、テニスコートやグラウンドの夜間照明、テニスコートや陸上競技場の屋根の設置、グラウンドの人工芝化等の整備を進めます。

(2) 現在のスポーツ施設では対応できないスポーツ施設の重点的な整備

弓道場（遠的）やクライミングウォール（山岳競技）など、国体等の競技でありながら府内に施設がない競技の施設の整備を進めます。

(3) スポーツに限らず、府民が足を運びたいくなるような施設整備

スポーツだけでなく、普段から足を運び、賑わいが生まれるような、付帯施設や幅広い利用が可能な施設の整備を目指します。

5 京都を元気にするスポーツ施設

(1) 広域的な役割を持つ市町村スポーツ施設整備への支援

市町村が広域的・基幹的、準広域的・準基幹的スポーツ施設を整備する際に支援を行い、幅広いスポーツ施設の整備を行います。

(2) スポーツやスポーツ施設を拠点としたスポーツ界における好循環の創出等、地域活性化に貢献し、京都を元気にするような整備

スポーツやスポーツ施設を中心に、アスリートや地域住民や府民、行政、学校、企業等が互いに連携をして好循環を生み出し、地域や京都が元気になるような施設整備や環境づくりを目指します。

